

Life・Culture & Welfare 地域から発信 福祉を文化へ

焼津福祉文化共創研究会通信 第74号

2025年度の活動テーマ「地域活動実践事例から、これからのご近所福祉のあり方を探る」を基に、10月に入り、活動は折り返しの時期を迎えた

本会は、「3つ活動基調」(1)さまざまな分野で活動する人たちや福祉職に従事する人たちが、専門分野と世代を超えて交流を図る(2) 会員だけが求心的・閉鎖的に集うのではなく、広く市民に開かれた活動をめざす(3) 既存のコミュニティ・福祉組織の活動から取り残された問題や新しく発生してきた問題を大切にし、つねに市民生活に密着した活動をめざすを掲げ、2025年度の活動は、いよいよ折り返しの時期を迎えた。

今年度は、下記の「5つの活動の着眼項目」をあげて取り組んでいる。

- ① これまで公表されてきた、県内外の「地域実践活動事例」をもとに、“ご近所福祉”を検証しつつ、この6年間の本会の活動の「ご近所福祉の課題」を整理し、これからの地域づくりについて議論を深める。困りごとを解決する支援及び地域資源を議論し合う。

→この6年間に取り組んだ「2つの調査研究活動」から、9月の定例研究会では、「私が困った時、地域にどのような支援があればよいか」を検証した。

A 2020年度(令和2年度)20歳以上対象調査 「ご近所福祉その意識と実態調査」

B 2022年度(令和4年度)65歳以上対象調査「ホッとする、安心した地域づくりその意識と実態調査」

のAB2つの調査において、設問した「今後、地域においてこまった状態の時、在宅生活を維持していくために、必要と思われる支援・サービスについて」調査結果をもとに意見交換をした。

回 答 内 容	A 2020年度 (令和2年度)	B 2022年 (令和4年度)
見守り・声掛け(安否確認)	29%	30%
移動支援	9%	10%
同行(買い物・通院)支援	8%	9%
配食	5%	4%
子育て支援	6%	0%
ゴミ出し	4%	5%
調理	0%	2%
災害時の手助け	18%	13%
話し相手	7%	7%
趣味・特技の援助	1%	1%
簡単な介護・介助	7%	5%
洗濯	0%	1%
小動物の世話	1%	0%
お墓の掃除	0%	1%
簡単な修理	3%	2%
その他	0%	1%
定期的なふれあいサロン	2%	4%
掃除(草取り)	0%	5%

\*20歳以上対象とした調査結果(A)と、65歳以上対象とした調査結果(B)と比較をすると必要と思われる支援・サービスの回答の多い順にあげると、① 見守り・声掛け(安否確認) ② 災害時の手助け ③ 移動支援 ④同行(買い物・通院)支援と、回答は同じである。

\*65歳以上対象とした調査結果では、そのほかに回答の多い順にあげると、「話し相手」「ゴミ出し」「簡単な介護・介助」「掃除(草取り)」「定期的なふれあいサロン」「配食」「調理」「簡単な修理」等があげられている。

\*今日、各地域において、どのような支援が出来るか、いろいろと話し合う中で、地域社会において実践活動として取り組まれている「居場所」「移動支援」「買い物支援」は、本会が実施した調査研

究活動からも、同じような内容が浮き彫りになったが、調査結果からは、「居場所・サロン」の回答は意外と少なかった。その代わり、「話し相手」の回答があったことを踏まえると、意図的な取組よりも、日常的な生活の中で、気兼ねなく、語れる環境が求められているようにも受け止められる。回答の一番多かった「見守り・声掛け(安否確認)」も、意図的な見守りから、さりげない見守りによって、普段の暮らしの中につながる人間関係が生まれてくるようにも感じる。

これまでの活動を振り返りながら、「9月定例会」では、地域の実践事例を学びながら、参加した会員同士が、当事者的立場にたち、「ゴミ出し」「移動」の2項目を、個々のニーズを支援が可能な小地域を想定して、どのように解決・改善できるか、思い思いに語り合った。出た意見を要約してみると、

困りごと(内容)	対象者の状況	自 助	共 助	公 助
ゴミ出し	一人暮らし高齢者 (移動やや困難)	・自宅前に準備をしておく ・日々分別をしておく	・ご近所同士で見守り をしながら支援 ・中学生等の通学時の V活動 ・ご近所の人移動時 に運搬(軽トラ)	・介護認定等による支援 範囲
移動(通院・買い物)	高齢者(高齢世帯) 免許証返納者	・家族・親族にあら かじめ予定を伝え 考慮してもらう ・遠出が難しくな ったら、自転車使用 ・健康維持を兼ねて 歩行可能であれば 目的を決めて行動	・管内の福祉活動事業 として運行事業化	・自主運行バス ・介護タクシー券 ・福祉有償運送サービス

引き続き、10月定例研究会では、対象者別に、さまざまな生活ニーズ(電球の交換・一緒に体操をする 樹木の剪定や花壇の手入れ・話し相手・役所提出書類アドバイス・部屋の模様替えや家具などの思い物の移動・お墓の掃除・趣味特技補助・買い物の送迎及び同行・旅行の付き添い・健康上の相談・食事介助・ペットの世話等)を、どのように「自助」「共助」「公助」を基に支援できるかを意見交換する。



- ② 「地縁組織」と「志縁組織」を探り、「協働」の意義を質す。
  - ➡ 本会結成以来、毎月「研究会通信」を発行し、今日までに74回発行。1か月ごとの活動状況や、定例会の協議内容をまとめ、紙媒体で約100部発行し、管内自治会役員、地域交流センター、学校、社会教育施設、焼津市行政各部署、焼津市V連絡協議会加盟団体、地域実践者、静岡県関係団体、これまで支援をいただいた助成地域実践者等に配布。メール送信による情報提供も努力している。
- ③ 会員や、地域活動に関心のある地域住民に呼びかけて、「語れる環境」「地域総合型学習」の醸成に努める。
  - ➡ 今年度は、本会独自の研修会等の企画はない。管内の関係者に、毎月の定例会の開催を連絡し、意見交換できる環境を維持するとともに、協働団体「静岡福祉文化を考える会」の研修会や、関連団体、焼津市V連絡協議会の研修会や代表者会等に積極的に参加し、活動の共有に努めている。
- ④ 「教育とコミュニティ」「教育と福祉」「理論と実践」「専門性と市民性」の『融合』を質す。
  - ➡ 本会が発行している「焼津福祉文化共創研究会通信」は、当初、会員中心の情報の共有を目的として発行した。この6年間の活動では、尊い市民からの赤い羽根共同募金の助成事業により、各種調査研究活動を協働団体「静岡福祉文化を考える会」とともに管内の地域課題を中心に取組み、その結果を「報告書」にまとめ、関係法面に配布するとともに、「調査報告研修会」を開催し、これからの地域づくりを確認し合ってきた。こうした活動のプロセスにおいて、管内の小学校・中学校や社会教育施設(焼津青少

年の家)に、地域活動の現状を理解していただく目的で「通信」提供の提案があり配布をすることにした。コミュニティ活動の拠点でもある「地域交流センター」及びコミュニティ活動推進者に、活動の情報提供にも努めている。

⑤ 地域福祉教育教材「若者発 ご近所福祉かるた」を、ご近所福祉の推進に活用の呼びかけをし、更なるかるたの活用方法の開拓に努める。

→本会は、「ご近所福祉」を検証する活動として、「1年目：地域ぐるみの居場所検証」「2年目：ご近所福祉 その意識と実態調査検証」「3年目：児童の福祉意識検証」「4年目：高齢者福祉意識検証」「5年目：中学生ご近所意識検証」「6年目：ご近所福祉総検証」と、これまで、あらゆる角度から「ご近所福祉」を活動に組み入れてきた。特に、今年度は、困りごとを解決する支援方法や地域資源を研究協議に取り組んでいる。こうした展開において、本会は、様々な形で令和元年度から、協働団体：静岡福祉文化を考える会が企画制作した「若者発 ご近所福祉かるた」を、この10年間、県内の福祉施設・グループ・団体、地域実践者へ配布提供してきたので、その「活用状況」を調査した結果をもとに、各領域における活用方法をまとめた「若者発 ご近所福祉かるた活用事例集」の作成に参画した。「かるた」は、管内の小学校・中学校、2つの地域交流センター、地域実践者等に配布提供している。「ご近所の支え合い」を学ぶ地域福祉教育教材として、広く活用できるように、日常的に働きかけている。



### シリーズ①「若者発 ご近所福祉かるた活用事例集」紹介コーナー

協働団体：静岡福祉文化を考える会とともに、令和6年度に、赤い羽根共同募金助成事業により、これまで、各地のかるたの活用状況を調査し、その結果を基に、このたび、漫画家 法月理栄様の多大なご支援(イラスト作画)をいただき、「若者発 ご近所福祉かるた活用事例集」を作成した。今月号(第74号)から、シリーズで紹介する。

#### 第1回は「家庭・家族：高齢者自身の学習」

高齢者自身の、これまでのご近所を振り返りながら、かるたの「読み札」を、用意した「ご近所福祉かるたノート」に毎日書き綴りながら、これからの世代に託したい思いを記録する。

##### ■進め方

- \* 「若者発 ご近所福祉かるた」の誕生の由来等を理解し、「かるた」を保有している、近隣の各種団体・福祉施設・地域実践者等で、貸出の手続きをして学習する。
- \* 身近なご近所へのこれまでの関わりを振り返る。
- \* 用意した「ご近所福祉かるたノート」に、毎日、少しずつ「読み札」を書き取る。
- \* 書き綴った「読み札」の隣の行に、ご近所の様子やこれからのご近所への思いを書き綴る。
- \* 書き綴った「ご近所福祉かるたノート」を「日記」として保管して、振り返りをする。

##### ■楽しさの工夫

- \* ご近所に住んで〇年、ご近所さんと日頃の挨拶や会話などを通じて、どこまでお付き合いが出来ているか、「ご近所福祉かるたノート」に書き留めた内容を振り返りながら、明日へのつなぎをしていくことで張合いが持てる。
- \* 時々、「若者発 ご近所福祉かるた」の「読み札」を大きな用紙に書き写しながら、生活に変化をもたせ、日々、継続し励みをもたせる。

##### ■留意点

- \* 現在の生活で、不安を感じていることはないか、誰に相談することが出来るか、元気なうちに、「ご近所福祉かるたノート」にいっしょに書き留めておくこと心強い。生活上の情報も、ご近所から常に届くように、日頃からご近所さんとの会話を心掛けていく。地域行事には、出来る限り参加し、「ご近所福祉かるたノート」に書き留めて、検証していくことも心掛けたい。



\* 9月に入っても連日の猛暑続き。マスコミは、もう四季感は無くなり、二季環境になるとも報じられている中で、近所の川添を歩いていたら、なんと「曼珠沙華」が見事に咲きほこっていた。「暑さ寒さも彼岸まで」をようやく、ここにきて一瞬体感した出来事であった。地域の活動が、これまでと同様に、季節感を感じながら「みんなの居場所、地域ぐるみの居場所」として維持されることを期待したい。

コミュニティ活動を「見える化」「わかる化」する努力をして、コミュニティ活動の意義を日々の生活の中で理解し合い、組織に参加している世帯(会員)が日常的に、語れる環境、つながる環境、支え合う環境の維持に心掛けていきたい。



### シリーズ⑱ 若者発 ご近所福祉かるたで学ぶ



このコーナーでは、平成27年度・令和3年度・令和6年度に、協働団体：静岡福祉文化を考える会が、赤い羽根共同募金地域福祉広域助成事業により、世代を超えて身近な地域社会を学ぶ、地域福祉教育教材として

作成した「若者発 ご近所福祉かるた」(本会活動参画)を本誌第57号から「シリーズ」で紹介。

今回は「め」「も」「絵札」は漫画家 法月理栄様が作画。\*かるた等の問い合わせは、054-624-1924 平田まで



“目は口ほどにものを言う”と言われます。「ふれあい」は優しい目から、心から「アイコンタクト」。



私たちの地域社会には、様々な地域課題があります。その「課題発見」から発想や視点を変えることで解決につながります。「地域把握」でピンチをチャンスに。

### 焼津福祉文化共創研究会事務局日誌拝見(9/18~10/4)

※予定含む

- 9/15 9月(第78回)定例研究会資料事前配布作業  
協働団体：静岡福祉文化を考える会の「30年誌」校正作業協力(～10/30)
- 9/18 焼津市V連 10/4 研修会参加申し込み(2名)
- 9/20 9月(第78回)定例研究会開催
- 9/24 菊川市の会議において、本会の活動内容紹介
- 9/25 島田市の会議において、本会の活動内容紹介
- 9/26 焼津福祉文化共創研究会通信第74号作成作業
- 10/01 焼津福祉文化共創研究会通信第74号発行、配布・メール送信作業実施
- 10/04 焼津市V連絡協議会主催「令和7年度ボランティア研修会」に2名参加

本会は、平成28年度から3年間、中学校区を中心に、地域の課題を学び合おうと、住民主体に「地域ささえあい講座」を開講し、延べ614名の地域住民が参加した。この学び合いの成果をもとに、継続的な話し合いの場をつくらうと、令和元年度に結成し、7年目の活動を展開中。身近な地域のことを一緒に語りませんか。本会(「焼津福祉文化共創研究会」)への問い合わせは下記をお願いします。

〒425-0041 焼津市石津3丁目10-8 焼津福祉文化共創研究会 平田 厚  
Tel&fax054-624-1924 090-4861-4547  
E-MAIL: monogusa-tomy@theia.ocn.ne.jp



焼津福祉文化共創研究会QRコード



協働団体：静岡福祉文化を考える会QRコード